

富岡町の復興状況と

再生に向けた今後の取り組み



福島県富岡町



富岡町再生・発展の先駆けアクションプラン（平成27年9月策定）

復旧・復興の取り組みをさらに加速し、町民一人ひとりに寄り添った復興を目指す。

（計画期間：平成27年度～平成29年度の3か年）

くらしの再生

住宅と医療・福祉施設の集約・整備で、住民にやさしい生活空間づくりを進めます。

にぎわいづくり

複合商業施設、交流サロン、駅前整備、公共交通の再開などにより、さまざまな人が集い賑わう“まちづくり”を進めます。

あらたな交流拠点

日本原子力研究開発機構（JAEA）廃炉国際共同研究センターとアーカイブ事業を核にした新たな交流拠点づくりを進めます。



整備状況

災害公営住宅整備や買い物環境の整備、交通機関の再開などを復旧しています。主な整備事業を紹介します。

復興の第一歩 ～復興拠点の整備概要（イメージ）～



① 住環境の整備

町内に災害公営住宅（154戸）



② 買い物環境の整備

“さくらモール富岡”

③ 交通機関の再開

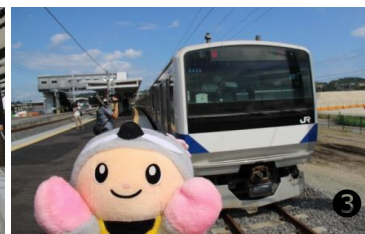
JR竜田駅－富岡駅間の再開
路線バス・デマンド交通

④ 福島イノベーション・コースト構想の実現

廃炉国際共同研究センター
国際共同研究棟 開所

⑤ 医療機関の再開

とみおか診療所 開所



人と町とのつながりアクションプラン（平成28年10月策定）

町外で生活せざるを得ない町民のサポートを継続し、さらに町とつながりを保ちながら、一緒に“ふるさと富岡”を未来につなげていくための長期に亘る仕組みづくりや環境づくりに取り組みます。

（計画期間：平成28年度～平成32年度の5か年）



基本方針と柱とする取り組み



町外生活サポート

- 町外生活の総合サポート
- 放射線に対する健康サポート
- 町内不動産の利活用サポート



富岡とつながる “ふるさと”づくり

- ふるさとへの関心
- ふるさとへの参画・交流

取組状況

“心の復興”と“つながりの維持”を図る町内でのイベント開催などを実施しています。主な整備事業を紹介します。

町民の “心”と“ふるさと”の 復興



①



②



③

①復興のつどい2017	平成29年4月8日	1,700名
②富岡夏祭り2017	平成29年8月11日	400名
③ふたばワールド2017	平成29年9月30日	10,300名
④ふれあい町民号	平成29年11月4～5日	115名
⑤新えびす講市	平成29年11月11～12日	8,000名

情報発信

町の復興状況などの情報を発信しています。



富岡町
公式フェイスブック



富岡町
公式アカウント



富岡町
公式チャンネル



とみおかアプリ



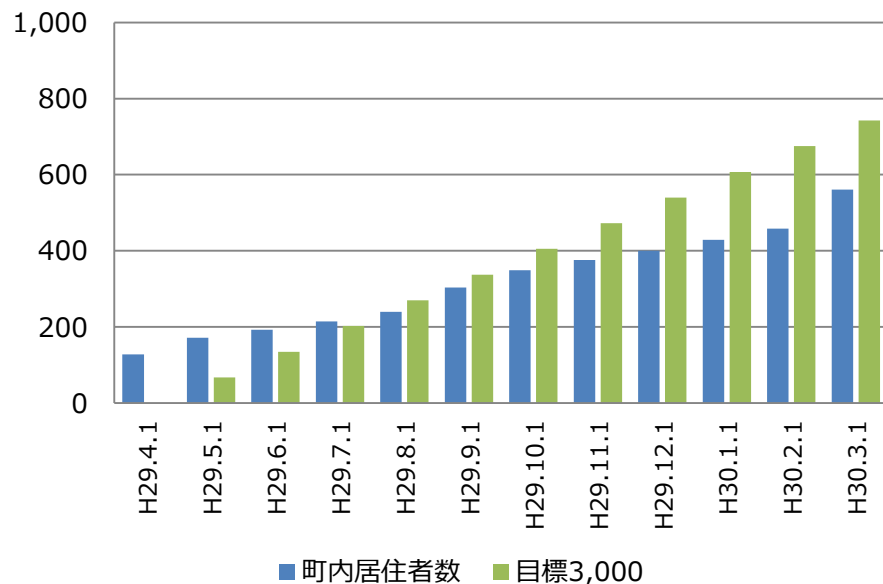
⑤



④



町内居住者の推移



富岡町帰町計画 (まち・ひと・しごと創生総合戦略)

(平成28年3月策定)

町民一人ひとりが町内における生活環境の充足度や町の状況を理解した上で個々の判断により帰還することとなるため、居住人口が町の復旧・復興の状態を推し測るものとする。

平成31年度末の目標：3,000~5,000人

- 〈基本目標1〉 安全・安心な生活の再生
- 〈基本目標2〉 定住の促進
- 〈基本目標3〉 富岡の文化と絆の再生・継承

【傾向・分析・対策】

- ・ 1月あたり20~40人程度の増加傾向であり、現時点では、**目標3,000人を若干下回る**。
- ・ 平成30年4月以降における整備（ふたば医療センター附属病院や学校再開等）により、更に増加することが期待される。
- ・ 町内生活環境の充実と並行して**帰還促進・定住促進を強化**に取り組む必要がある。

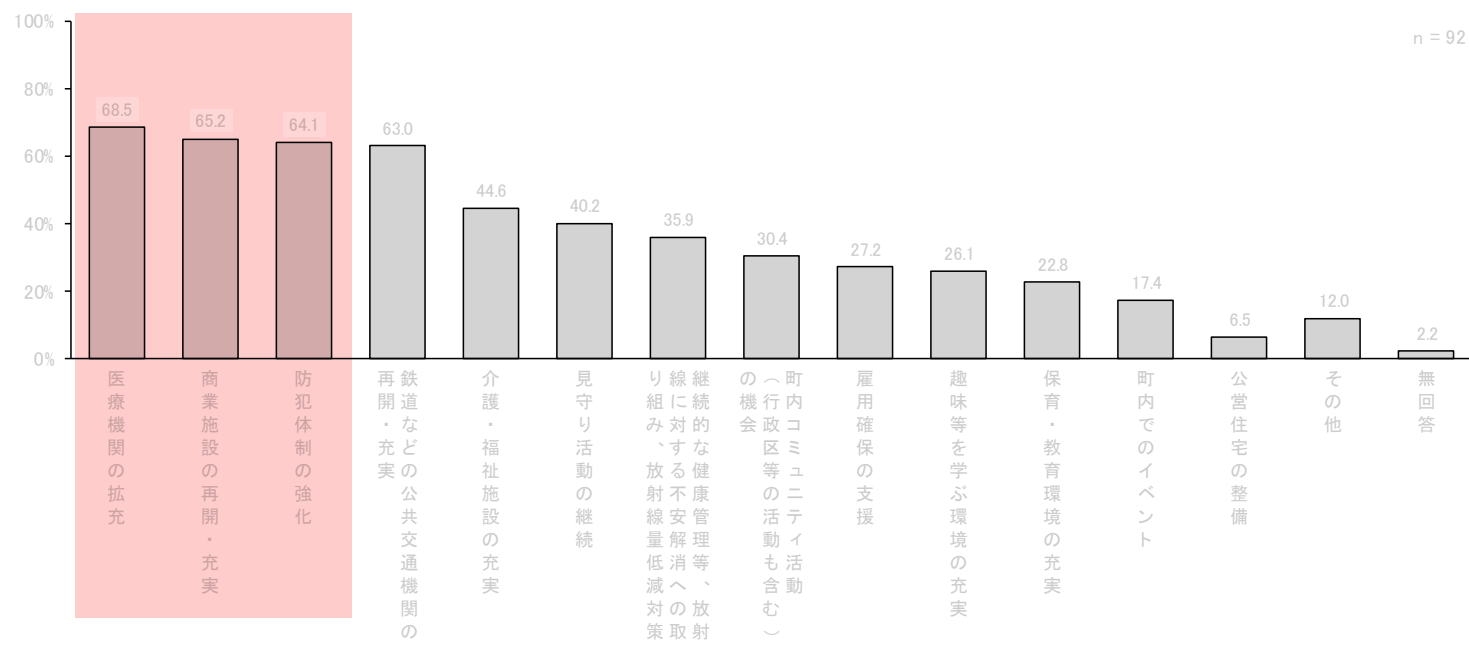
【平成30年度 帰還促進・定住促進事業】

- ・ 早期帰還移転補助（引越し補助） ・ 家庭用防犯カメラ設置補助金 ・ 住宅清掃費補助 ・ 害虫駆除
- ・ 電気柵等購入（鳥獣対策） ・ 新築住宅経費補助 ・ 子育て世帯補助 など

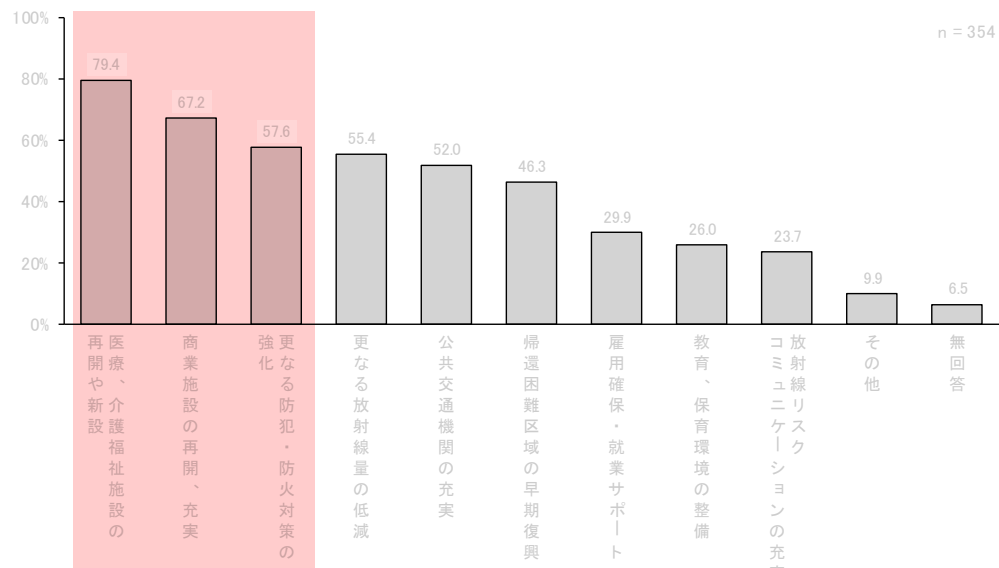
(平成29年度継続事業も含む)

復興状況 ～町民の意見（平成29年度 富岡町住民意向調査より抜粋）～

（１）今後の生活において必要と感じていること ※既に富岡町で生活している」と回答した方のみ



（２）帰還する場合に必要な施策 ※戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）と回答した方のみ



【生活再建に関する要望など】（原文のまま掲載）

- ・現在の生活を捨ててまで富岡町に帰るつもりはありませんが、町外にいたとしても役所などの行政サービスは受け続けることができると思います。（10～20代）
- ・子どもの学校のこともあるのですぐには戻れないが、数年後には帰りたい。その時まで、もう少し住みやすい環境になっていたらと願います。（40代）
- ・若い人が戻る様な環境づくりを一日も早く作って、住民が安心して暮らせる様にしてもらいたい。（60代）

●2018（平成30）年度 重点目標

- 帰還困難区域の再生に向けた確実な取り組み
- 更なる町内生活環境の整備

●2018（平成30）年度 取組や課題

復興財源 本格復興を推進するための **財源確保**

帰還困難 特定復興再生計画に基づく **帰還困難区域の確実な再生**

町内生活 **更なる町内生活環境の整備** と **タイムリーな情報発信**

生活支援 すぐに帰還できない **町民への支援**

二地域 避難先と避難元の双方における **自治体との結びつきの維持**